

1	研究名	末梢神経疾患における拡散テンソル画像の有用性に関する研究
2	目的	拡散テンソル画像が末梢神経の障害状況を客観的に判断する指標となりうるか否かを明らかにする
3	対象	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー患者を主体とし、その他ギラン・バレー症候群、シャルコー・マリー・トゥース病、筋萎縮性側索硬化症の患者。ただし年齢20歳以上で本人からインフォームド・コンセントが得られた患者に限る。総計30名程度を予定
4	期間	平成23年12月31日まで
5	担当	放射線診断科 谷為恵三
6	研究者内容	①患者群と健常ボランティア群での脛骨神経のMean Max FAに有意差があるか否かを検定(それぞれの疾患群での違いを含め)。 ②慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー患者群と健常ボランティア群での脛骨神経のSD of Max FA や Proximal Mean Max FA-Distal Mean Max FAの絶対値に有意差があるか否かも検討。 (慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー患者では多巣性の脱髄性変化を反映して撮像断面、撮像部位間での差が大きい可能性が考えられるため) ③患者におけるMean Max FAと神経伝導検査や徒手筋力検査との関連性の検討。 ④患者におけるMean Max FAと罹病期間、年齢、性別などとの相関の検討。 などを解析する。
7	個人情報に関する考え方	匿名化、コンピュータ上でのパスワード設定などを講じることで、個人情報が漏れることがないように留意します。
8	発表	学会、誌上で発表を予定していますが、個人の特定できる形の発表はありません。